



田園空間博物館だより なすの大地

第38号

2021年9月発

◎当誌は「那須野が原西部田園空間博物館運営協議会」の広報誌です。
当運営協議会は「那須野が原西部田園空間博物館」の管理、運営を行っています。

「那須野が原西部田園空間博物館」とは

にわとこ

那須野が原西部地区（西那須野地区、横林・接骨木地区）の豊かな自然や疏水・開拓にまつわる史跡などを田園空間に広がる展示物（サテライト）に見たてて、『屋根のない博物館』として地域全体をとらえ、その地域に暮らす方々が中心となって保全・活用・復元し、地域の活性化を目指すもので、**県内では唯一の博物館**です。

総合案内所が、那須野が原博物館に併設されており、パンフレット、大型パネル等により当博物館の案内をしています。

◎ サテライトについて

サテライトは地域ごとにフットパス（巡回ルート）で結ばれ、ルートを巡って、散策を楽しむことができます。数あるサテライトからいくつか紹介します。

○三島農場事務所跡のヤウラと土塁

ヤウラとは防風林や屋敷林のことで、昔から那須野が原では冬季になると那須おろし・高原おろしと言われる強い季節風が吹き、砂ぼこりがひどく親指大の小石が飛んできたり、時には家屋を倒壊させるほどのものでした。そんな過酷な環境から建物を守るため、家の北側に風よけのためにヤウラや土塁を建てていました。那須野が原博物館にはかつての三島農場事務所のヤウラと土塁が復元されており、散策路を歩くと先人たちの知恵と古き良き原風景を感じることができます。



【博物館の中からも見えるヤウラ】



【博物館の東側に広がる水辺空間】

○三島農場事務所跡の水辺

那須野が原博物館の東側には親水空間が整備され、那須野が原で最初の大農場の肇耕社（ちょうこうしゃ）を前身とする三島農場の跡地に、農場事務所の池や那須疏水の石積水路など、開拓当時を物語る施設が復元されています。また、千本松牧場などで使用されていたアメリカ製大農具なども展示されており、明治の開拓期の様子をうかがい知ることができます。

◎「那須野が原西部田園空間博物館運営協議会」について

西那須野地区の6つのコミュニティ（西、狩野、三島、中央、大山、南）と塩原の横林・接骨木地区（横接地区コミュニティ）と関係団体を主なメンバーとし、那須野が原西部田園空間博物館の管理・運営や様々な普及活動を行っています。

◎ 令和3年度の協議会の主な活動予定

5月1日～5月31日	サテライト写真展（那須野が原公園サンサントワー）
5月27日	第20回総会（書面決議）
6月～10月	サテライト清掃活動（各地区コミュニティ）
9月16日	小学生サテライト絵画展審査会
9月17日	広報誌「なすの大地」第38号発行
9月25日～9月30日	小学生サテライト絵画展（栃木県庁展望ギャラリー）
10月19日～11月14日	博物館フェスタ 写真展示（那須野が原博物館）
11月13日～11月14日	小学生サテライト絵画展（なすしおばらまなび博）
11月7日または21日	那須野が原ウォーク（那須野が原公園～千本松）
R4年1月15日～23日	小学生サテライト絵画展（那須野が原博物館）
1月26日～1月31日	小学生サテライト絵画展（那須野が原公園緑の相談所）
3月18日	広報誌「なすの大地」第39号発行

※新型コロナウイルスの感染拡大状況により予定が変更または中止となることがあります。

○那須野が原公園にてサテライト写真展が行われました

「水が拓く緑の夢空間那須野写真展」と題して、5月1日～5月31日に那須野が原公園のサンサントワーで田園空間博物館の写真を展示し、多くの方に地域に根差したサテライトがあることを紹介しました。



【那須野が原公園サンサントワーでの写真展】

◎各地区コミュニティより

○中央地区コミュニティサテライト写真展

西那須野公民館にて中央地区コミュニティのサテライト写真展が7月1日から7月31日にかけて行われました。



【西那須野公民館での写真展】

○各地区コミュニティ整備部会サテライト清掃活動

6月～9月に各地区コミュニティでサテライトの清掃活動が行われました。草刈や剪定、清掃を精力的に行い、環境美化に取り組んだ結果、水路や散策路などがきれいになりました。



【接骨木地区清掃活動】



【三島地区コミュニティ清掃活動】



【西地区コミュニティ清掃活動】



【狩野地区コミュニティ清掃活動】



【南地区コミュニティ清掃活動】



【大山地区コミュニティ清掃活動】

「那須疏水」（世界かんがい施設遺産）以前の
那須野が原西部地区の湧水と小川あれこれ

特集 シリーズ7

三島地区コミュニティ

〇水のない開拓地を潤す那須疏水

三島地区は、三島、東三島、西三島、東赤田、南郷屋、と五軒町の一部からなります。大部分は、明治13年に開設された肇耕社（ちょうこうしゃ）、のちの三島農場の範囲に含まれます。

この地区は、那須野が原開拓発祥の場所として知られており、三島、東三島、西三島にまたがる碁盤の目状に整理された区画が特徴的な景観を生み出しています。

三島地区は、那須野が原の中でも特に水の乏しい地域で、隣接する狩野地区のような湧水点はほとんどありません。しかし、平成10年の水害の時には、三島中学校の校庭から2か月にわたり水が湧き出したという記録もあります。これは、国内最大級の複合扇状地である那須野が原の地下に広がる地形の複雑さを物語るものですが、詳しいお話はここでは割愛します。

そんな水のない原野で始まった開拓事業。それはまさに水との闘いでした。開拓地に入植した人々は、生活に欠かせない水を



【かつての塩原新道（塩原街道）と三島堀】

手に入れるため遠いところでは4キロ先の川まで水を汲みに出かけていきました。肇耕社に限らず、那須野が原に開設された農場共通の問題である水不足を解決するため、那須開墾社の印南丈作と矢板武は何度も国に働きかけ、明治18年に念願の那須疏水本幹水路が開削されました。

三島地区を流れるのは本幹水路から分岐する3番目の分水と、その支線です。第3分水は、千本松の分岐点から塩原街道沿いにまっすぐ進みますが、南赤田で右に折れて西三島の西端を抜け、西那須野駅前方向に流れていく分水路（深川堀）と、塩原街道沿いに進む支線（三島堀）に分かれます。この三島堀からは、すぐに南郷屋堀が分岐し、東に進み三島中学校敷地を抜けて南郷屋に至ります。三島堀は那須野が原博物館で再び分岐し、一方は西那須野駅方向に向かい、もう一方は東三島地区の碁盤の目の中を分岐していきます。

那須野が原博物館より下流は水路に蓋がかけられて暗渠となっているため、どこに疏水が流れているか、一目で判断することはできませんが、那須野が原博物館や三島小学校では、モニュメントとして疏水の水を引き込んでおり、疏水の存在を感じることができます。市街地化が進んだ三島地区では、疏水の恩恵を実感できる光景は少ないように思われますが、明治の開拓以来100年以上にわたり、那須疏水はこの地に住む人々の生活を守り続けているのです。（文責：田園空間博物館 企画広報部会）



【三島別邸（旧西那須野町郷土資料館）
（平成5年に火災により焼失）

三島地区を流れるのは本幹水路から分岐する3番目の分水と、その支線です。

第3分水は、千本松の分岐点から塩原街道沿いにまっすぐ進みますが、南赤田で右に折れて西三島の西端を抜け、西那須野駅前方向に流れていく分水路（深川堀）と、塩原街道沿いに進む支線（三島堀）に分かれます。この三島堀からは、すぐに南郷屋堀が分岐し、東に進み三島中学校敷地を抜けて南郷屋に至ります。三島堀は那須野が原博物館で再び分岐し、一方は西那須野駅方向に向かい、もう一方は東三島地区の碁盤の目の中を分岐していきます。

三島地区を流れるのは本幹水路から分岐する3番目の分水と、その支線です。

第3分水は、千本松の分岐点から塩原街道沿いにまっすぐ進みますが、南赤田で右に折れて西三島の西端を抜け、西那須野駅前方向に流れていく分水路（深川堀）と、塩原街道沿いに進む支線（三島堀）に分かれます。この三島堀からは、すぐに南郷屋堀が分岐し、東に進み三島中学校敷地を抜けて南郷屋に至ります。三島堀は那須野が原博物館で再び分岐し、一方は西那須野駅方向に向かい、もう一方は東三島地区の碁盤の目の中を分岐していきます。



【那須野が原博物館の三島堀（復元）】

那須野が原西部田園空間博物館運営協議会

◇発行・問合せ先◇

Tel 0287-37-5108（事務局：那須塩原市西那須野支所産業観光建設課内）

◇HPアドレス◇

<http://www2.city.nasushiobara.lg.jp/denkuu/>



※当誌は那須塩原市の公民館で配布しておりますので、希望される方は各公民館までお問い合わせください。